

街を行く

第119回 藤沢 Fujisawa

サテライトシティになるのか

すでに多くの人がテレワークに慣れてきました。皆さんも自宅でオンライン会議に参加したり業務書類を作成したりされていることと思います。この小生もかなり慣れ親しまして、朝は海外とのWEB会議に始まり、ビジネスメールやSNSの処理を終わらせ、ジムで泳いでから会社へ出かけるという生活リズムができました。出社するとは言っても事務所にこもっている訳ではなく、外で人に会っているのです。会合も交渉も大抵リモートで済ませられるご時世ですが、流石にこの歳になると相手先が目の前にいたほうがラクなので、直接対面でお会いしているといった感じです。

今後ビジネスの勝ち負けは、リアルとリモートで事務所を使い分けできるかで決まるのかも知れません。リアルに人と会う場としての事務所は、都心の大きく広い空間である必要がなくなりました。これからは、利用する人のライフスタイルを考慮した場所や空間であるべきではないでしょうか。これまで都心オフィスに通う誰もが感じてきたのは、満員電車の辛さと会社到着時には既に疲れているほど長い通勤時間の無駄です。辛さと無駄こそ日本のビジネスマンならではの通勤スタイルで、大勢が耐え忍んできた最大のネックでした。それがテレワークによって根本から解消されるのは喜ばしいことでしかないでしょう。

かといって、事務所が完全に不要なわけではありません。仲間と直接に顔を合わせるのも大切。だから今後は、ある地域を拠点に、近隣に住む仲間達が集まる「サテライトオフィス」を地域ごと

に備える必要性が出てくるでしょう。そして、職種や住まいの関係から都心オフィスへ通うのが必要かつ便利な方も多いでしょうから、単純にすべてをサテライトにすればいい訳でもありません。あくまで都心と郊外のオフィスの共存だと思います。

今回「藤沢」に目を向けたのは湘南エリアの玄関口で、都心近郊のターミナルという顔を持っているためです。テレワークがますます増え、在宅勤務が奨励さ

れる世の中が続ければ、都心での生活から、湘南で潮の香りを浴びてのんびり暮らす生活にあこがれ、藤沢に移住する人が増えるのではないかでしょうか。同じライフスタイルを楽しむ仲間と一緒にから、時間の使い方やオフィスの活用法も都心とは違うものになるかも知れません。

もし藤沢に小生のサテライトオフィスがあつたらどんな勤務形態となるのか。想像するのも楽しいですね。勤務形態どころか全く自由なフリースタイルのオフィスになるかも知れません。周囲には既にコワーキングスペースはありますが、それではなく、会社単位で社員の生活様式を考慮したサテライトオフィ

スが登場するほうが、今後の会社組織のあり方から重要だと考えます。本連載ではしばらくサテライトオフィスに焦点を当てて、その拠点となりそうな街を探し訪ねてみたいと思います。

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エトス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。

